

流山市若葉台遺跡出土の縄文時代前期の土器



柏市小山台遺跡出土のヒスイ製大珠  
(参考資料)



柏市聖人塚遺跡出土の縄文時代中期の土器



## 常磐道の遺跡展

# 悠久の歴史を 旅して



柏市大六天遺跡出土の石槍(参考資料)



柏市元割遺跡出土の石槍

柏市花前Ⅱ-1遺跡出土の染付皿



柏市花前Ⅱ-2遺跡出土の白磁鉢



柏市花前Ⅱ-2遺跡出土の鉄ばさみ



柏市花前Ⅰ遺跡出土の銅製柄杓

### 【展示開催館】

## 千葉県立房総のむら

印旛郡栄町龍角寺1028  
☎0476-95-3333

7月15日(土)~9月24日(日)

## 流山市立博物館

流山市加1丁目1225-6  
☎04-7159-3434

11月4日(土)~12月24日(日)

## 柏市郷土資料展示室

柏市大島田48-1(柏市沼南庁舎内)  
☎04-7191-1450

平成30年

1月13日(土)~3月11日(日)

開催館により展示内容が異なります。  
休館日・入館料は各開催館にお問い合わせください。

### 講演会

平成30年2月10日(土) 午前10時30分~午後3時30分

会場: さわやかちば県民プラザ 柏市柏の葉4-3-1

講師: 塚本師也((公財)とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター)

吉田秀享((公財)福島県文化振興財団)

橋本勝雄(当財団職員)

※詳細は千葉県教育振興財団文化財センターまでお問い合わせください。

当日先着  
400名

### ワークショップ

内容: 貝のアクセサリ作り(400円)・縄文土器カラー拓本(無料)

日時: 平成29年8月6日(日) 13:30~16:00

会場: 千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館

受付: 当日随時受付

### 講座

①日時: 平成29年8月20日(日) 13:30~15:00

会場: 千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館(当日受付 定員60名)

講師: 郷堀英司

演題: 常磐道の遺跡

②日時: 平成29年11月19日(日) 13:00~15:00

会場: 流山市立博物館(館へ事前申込み 定員40名)

講師: 田中和之(埼玉県蓮田市教育委員会)

演題: 縄文時代前期の貝塚と文化形成 ~ 奥東京湾沿岸の事例を中心として ~

※詳細は各会場  
にお問い合わせ  
ください。

## ごあいさつ

千葉県では、年間400件ほどの発掘調査が行われ、房総各地の歴史と文化を伝える貴重な成果が数多く得られております。当財団の調査成果については、遺跡見学会や展示会をはじめ、ホームページや広報紙『房総の文化財』などの刊行物等で順次、紹介してまいりました。今回企画した展示会は、常磐自動車道の建設に伴って調査された16遺跡の中から、主な遺跡の発掘調査成果を「常磐道の遺跡展～悠久の歴史を旅して～」と題して紹介するものです。江戸川と利根川に挟まれた柏市・流山市の旧石器時代から近世にかけての多様な文化の一端を感じていただき、埋蔵文化財保護へのご理解をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご協力をいただきました関係機関並びに関係者の皆様に、心からお礼申し上げます。

公益財団法人 千葉県教育振興財団

- 凡例
- 1 本図録は、平成29年度出土遺物公開事業「常磐道の遺跡展」の展示解説図録です。
  - 2 展示資料は、柏市教育委員会所蔵の石棺以外は、千葉県教育委員会所蔵です。なお、柏市小山台遺跡の大珠は当財団が仮保管しています。
  - 3 本展示は、文化財センター長 上守秀明・整理課長 田井知二の指導のもと、主任上席文化財主事 糸川道行・上席文化財主事 栗田則久が担当し、図録の執筆及び編集は栗田が行いました。

### 常磐自動車道

常磐自動車道は、昭和41年に国土開発幹線自動車道の予定路線とされ、昭和60年に今回紹介する柏市・流山市の遺跡を含む三郷IC～柏IC間が開通しました。

発掘調査は、昭和52年10月に柏市花前Ⅰ遺跡をはじめとする5遺跡を対象とした調査が開始され、昭和56年度の流山市若葉台遺跡などの4遺跡の調査を最後として、柏市・流山市にまたがる8.6kmに及ぶ路線内の発掘調査が終了しました。

成果については、昭和57年3月に『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』として刊行され、昭和60年度の5冊目の調査報告書ですべての遺跡の成果が公表されました。

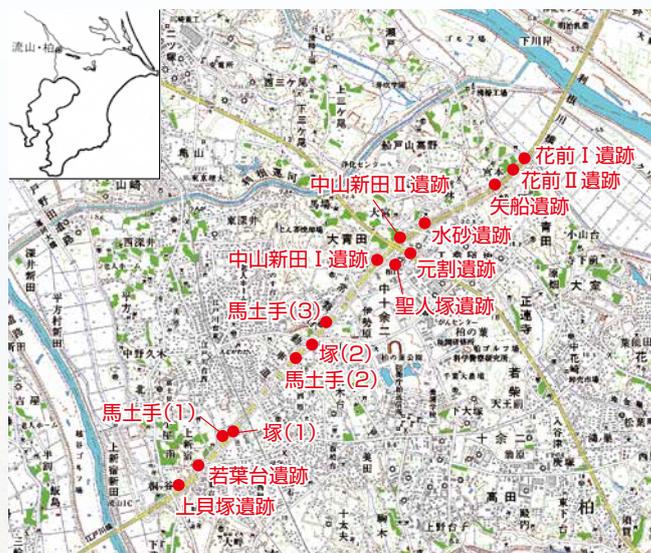
その成果を概観すると、旧石器時代はほとんどの遺跡で遺物が確認されています。

縄文時代は前期後半と中期前半の代表的な集落として注目されます。

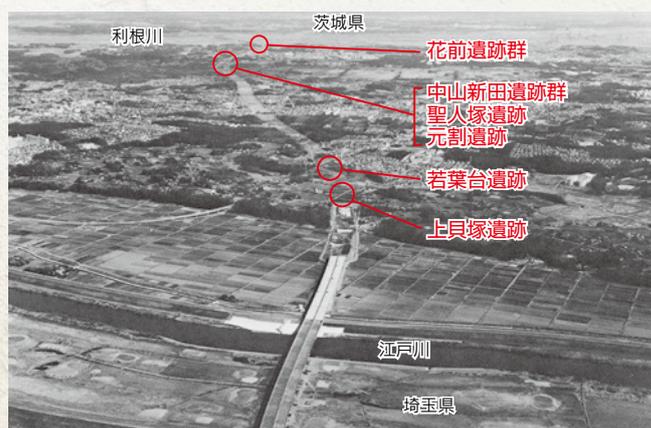
その後、弥生時代の終わりまで空白期間があり、古墳時代前期～後期の小規模な集落が営まれます。

奈良・平安時代になると、製鉄を中心とした生産遺跡が柏市花前遺跡に集中しています。

江戸時代では、屋敷跡や牧とともに多くの陶磁器類が見つかっています。



常磐道の路線と調査した遺跡の位置図(展示分)



建設中の常磐道(流山側から)

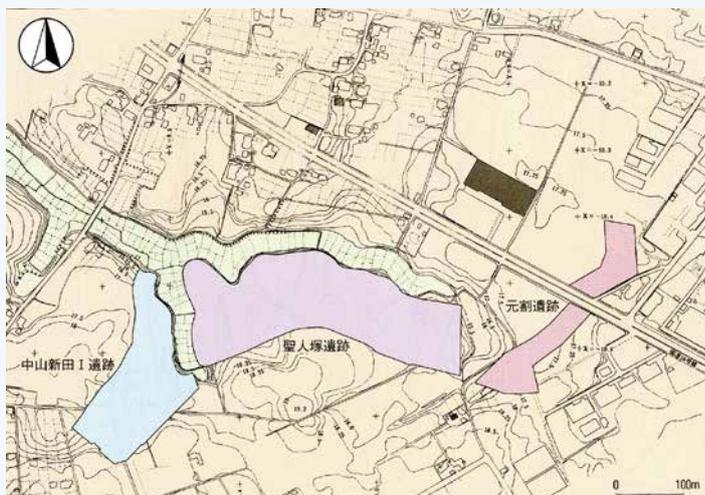
# 旧石器時代

柏地区の11遺跡すべてから旧石器時代の石器が見つかったことから、この時期の生活の営みが盛んであったと推察されます。今回の展示では、この中から中山新田Ⅰ遺跡・聖人塚遺跡・元割遺跡の3遺跡を紹介します。

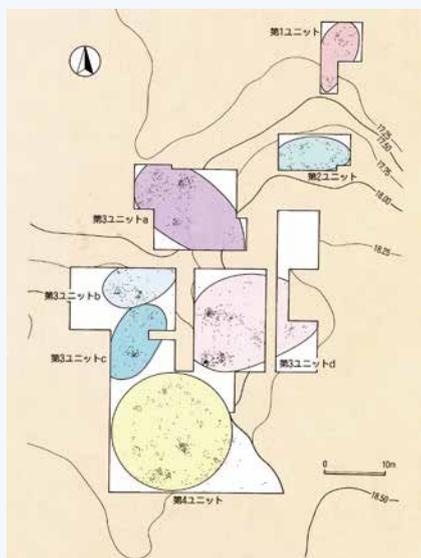
## 柏市中山新田Ⅰ遺跡

Ⅲ層から黒曜石製の小型石槍が散見するものの、主体はⅨ層(約30,000年前)で、7か所の石器集中地点に分けられます。

中央部では4か所で石器の集中する地点が発見され、第3c地点からは、この時期の特徴である局部磨製石斧が出土しています。一方、最南端部には、環状ブロックと呼ばれる第4ユニットが位置しています。



中山新田Ⅰ遺跡・聖人塚遺跡・元割遺跡位置図  
(『千葉県歴史資料編 考古1』より転載)



中山新田Ⅰ遺跡のユニット配置図  
(『千葉県歴史資料編 考古1』より転載)



第4ユニットⅨ層出土石器



中山新田Ⅰ遺跡石器出土状況



Ⅸ層出土局部磨製石斧

## 柏市聖人塚遺跡

立川ローム層のほぼ全層から石器が出土しており、出土層位を基準に5つの文化層と21か所もの石器集中ブロックに区別されることから、25,000年以上もの長期間にわたり同一の場所で人々の営みが続いていたと推測されます。

総数1,324点もの大量の石器のうち、約900点が石器製作の際に産出された剥片や削片であることから、石器製作遺跡であると考えられます。



聖人塚遺跡No.17ブロック石器出土状況



第2ブロック出土石器



第20ブロック出土石器

# 旧石器時代

## 柏市元割遺跡

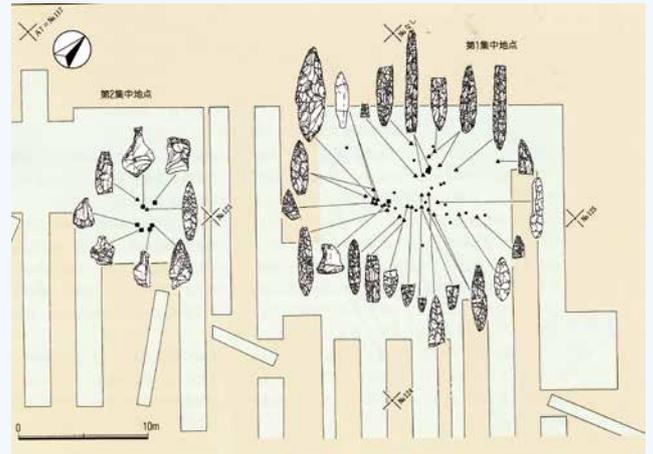
Ⅶ層(第2黒色帯上部)やⅣ・Ⅴ層(ハードローム層上部)で石器群が見つっていますが、特に後者では745点もの石器類が出土し、ナイフ形石器や削器などこの時期に一般的な器種で構成されています。

一方、本遺跡で最も注目される資料が、石槍を主体とした石器群です。出土した層位がⅡ層下部であることから、報告書や『千葉県の歴史』などでは縄文時代草創期の資料として扱われていますが、この時期の土器が1点もなかったことや、他遺跡の例などから、旧石器時代最終末の資料として紹介されます。

## 出土した石器

2か所の石器集中地点から、石槍31点(25個体)、削器6点のほか、剥片類23点が出土しています。石槍の石材は、黒色の珪化岩・チャート・ガラス質黒色安山岩の3種類が使われています。

集中して出土した石槍は、昭和31年に調査された新潟県本ノ木遺跡の成果から、「本ノ木型」と呼ばれています。刺突具として使用されたため、多くが破損品として残されています。「本ノ木型」石槍は、関東地方を中心に東日本に分布していますが、千葉県は、関東地方の出土例の過半数を占める県として知られています。ただ、単独で発見される例がほとんどで、元割遺跡のような複数の資料が出土する例は少なく、貴重な出土例となっています。



石槍を主体とした第1地点の石器出土状況  
(『千葉県の歴史 資料編 考古1』より転載)



元割遺跡第1地点の石器出土状況



旧石器時代最終末の石槍を主体とした石器

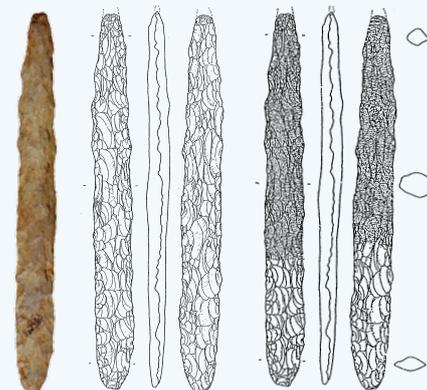


元割遺跡第1地点の石器出土状況(部分)

## 柏市大六天遺跡(参考資料)

この石槍は、古墳時代の竪穴住居跡から出土しており、混入した資料であることは間違いありません。

使用石材は北関東系の黒色頁岩で、風化がかなり進んでいます。大きさは、最大長19.2cm、最大幅1.9cm、厚さ1.2cmを測る大形の石槍で、先端部に使用時の損傷が見られることから、復元長20cmを超える大型の資料です。



大六天遺跡出土の大型石槍

この石槍の基部と身部には、色調に濃淡の差が確認されます。このような色調と断面形の違いから、柄に装着したようすをうかがうことができます。

# 縄文時代

## 流山市若葉台遺跡

台地上の径200mほどの範囲に前期前葉(約7,000年前)の竪穴住居跡10軒などが検出されました。平面形は、009号竪穴住居跡のように短辺が弓なりに湾曲し、台形状となるものと、002号竪穴住居跡のような長楕円形を示すものの2タイプに大きく分かれています。



009号竪穴住居跡全景



002号竪穴住居跡全景



011号竪穴住居跡出土



002号竪穴住居跡出土



009号竪穴住居跡出土

若葉台遺跡出土縄文時代前期の土器

竪穴住居跡内からは、前期前葉の埼玉県蓮田市の黒浜貝塚を標識遺跡とする黒浜式土器が多く出土しています。011号竪穴住居跡のように、前時期の関山式期の文様を引き継いだようなタイプも含まれており、黒浜式期でも古い段階の縄文土器が主体となっています。

## 柏市花前I遺跡

前期前葉(黒浜式期)の竪穴住居跡が9軒調査されています。いずれも隅丸方形の平面形で、8軒の竪穴住居跡内の覆土中に貝層が堆積していました。特に、103号竪穴住居跡内には全面に貝層が堆積し、多くの遺物が発見されています。ハマグリ製の貝刃もこの住居跡から出土しています。関山式の文様構成を引き継いでいないことから、若葉台遺跡よりやや新しい時期と思われる。

黒浜式期の竪穴住居跡覆土中に形成された貝層から、当時の古鬼怒湾で行われた生業の一端をうかがうことができます。

一方、前期後半の浮島式土器を出土した竪穴住居跡は2軒のみで、この時期の2軒の竪穴住居跡には貝層が伴っていませんでした。



013号竪穴住居跡



013号竪穴住居跡の貝層



118号竪穴住居跡土器出土状況



026号竪穴住居跡土器出土状況



103号竪穴住居跡出土



118号竪穴住居跡出土



007号竪穴住居跡出土



013号竪穴住居跡出土の貝刃

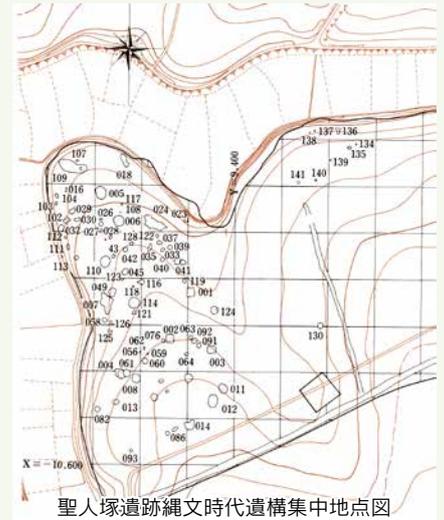
103号竪穴住居跡の縄文土器は、全体的に円筒状の形をし、全面に単節縄文を密に施しています。口唇部には指頭による圧痕が加えられ、小さな波状を形作っています。118号竪穴住居跡例は、4単位の緩やかな口縁部を作り、器面全体に貝殻の縁を使った文様をまばらに加えています。007号竪穴住居跡出土の縄文土器は、口唇部に細い竹管工具によるキザミがあり、胴部には貝殻の縁による波状の文様を施しています。

# 縄文時代

## 柏市<sup>しょうにんづか</sup>聖人塚遺跡

この遺跡での竪穴住居跡等は、北西から流れ込む小河川が分岐する沖積地を望む台地縁辺部に集中しています。早期～晩期の遺物が見つっていますが、主体を占めるのは、中期前葉～中葉の遺構・遺物です。

当該時期の遺構としては、中期前葉の竪穴状遺構2基と中期中葉の竪穴住居跡14軒、竪穴状遺構3基などが調査されています。



005号竪穴住居跡全景



出土土器

これらの土器は、縄文時代中期中葉(約5,000年前)の神奈川県相模原市の勝坂遺跡を標式遺跡とした「勝坂式土器」の影響が部分的に認められます。



012号竪穴住居跡全景



出土土器



061号竪穴住居跡全景



出土土器



110号竪穴住居跡出土土器

この遺跡の大きな特徴としては、多量に発見された石器があげられます。黒曜石の大形の石核や剥片が目立ち、その多くは神津島産と考えられています。しかしながら、石鏃の大半が黒曜石でありながらも、神津島産は少なく、信州系やその他の石材が主体となります。このことから、神津島産の黒曜石を使った石鏃は遺跡外に運び出されたものと思われる。



神津島産黒曜石の石核と石鏃

## 柏市<sup>なかやましんでん</sup>中山新田 I 遺跡

本遺跡の縄文時代中期前葉の竪穴住居跡は5軒と小規模ですが、いずれも屋内炉がなく、床面中央部に支柱穴が位置するという共通の特徴をもっています。また、5軒中3軒の竪穴住居跡は、床面に同心円状の段が掘り込まれる「有段竪穴」の構造を示しています。

出土した縄文土器は、中期前葉の阿玉台式期の古い段階で、中部高地に分布の主体をおく「貉沢式土器」の文様が入った土器も一定量見ることができます。



097号竪穴住居跡と土器出土状況



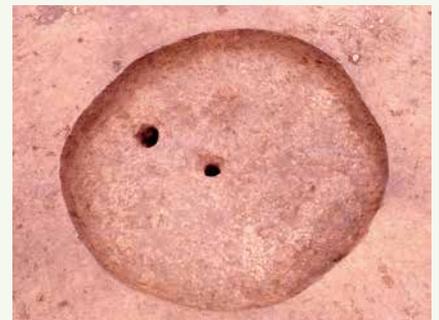
096号竪穴住居跡と出土土器



097号竪穴住居跡出土土器



084号土坑出土状況と出土土器



090号竪穴住居跡と出土土器

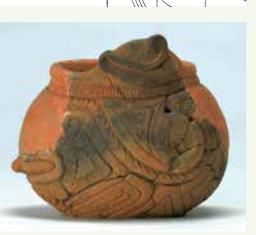
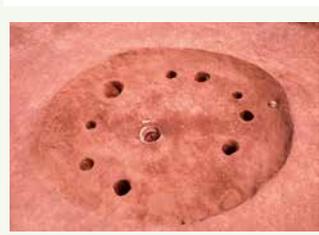
# 縄文時代

## 柏市中山新田Ⅱ遺跡

昭和53年度～56年度に調査された中山新田Ⅱ-1遺跡・Ⅱ-2遺跡・Ⅱ-3遺跡及び八両野遺跡をまとめ「中山新田Ⅱ遺跡」として報告されています。

聖人塚遺跡北側の小さな谷を挟んだ台地上に位置し、谷を望む台地南側縁辺部の比較的狭い範囲に集中して竪穴住居跡群が形成されています。

調査で見つかった竪穴住居跡はすべて縄文時代中期前葉の阿玉台式期に営まれています。比較的短期間に出現し消滅していった集落と思われます。



002号竪穴住居跡出土土器

055号竪穴住居跡と出土土器

057号竪穴住居跡と出土土器



067号土坑土器出土状況

出土土器

阿玉台式土器は、香取市(旧香取郡小見川町)阿玉台貝塚を標式遺跡とする土器型式です。千葉県を含む東関東や北関東に分布の中心があり、土器の胎土中にキラキラ光る雲母片が多く含まれるのもこの土器の大きな特徴です。隆起線文や半分に分けた竹管を用いた角押し押文が付けられています。

## 柏市水砂遺跡

中期の竪穴住居跡は5軒と少なく、阿玉台式期前半3軒と後半の2軒で構成されています。前者は、円形や楕円形の平面形で、屋内炉がなく、床面中央に支柱穴が見られます。後者は、隅丸方形と円形の平面形で、周溝と屋内炉を伴っています。



人面と思われるこの資料は、土器の把手となる可能性が高いのですが、土偶と同じような顔面表現をしています。正面の前頭部を欠いていますが、ゆるやかな三角形の頭部を持つものと思われます。両耳の下位に穴が開けられています。頭頂部内側はへこんでおり、竹管工具による刺突が見られます。胎土中に比較的多くの雲母を含み、目の周辺を巡る細い角押し(有節線文)などの特徴から阿玉台式期前半段階の把手と思われる。



028号竪穴住居跡と出土土器



029号竪穴住居跡と出土土器



## 柏市小山台遺跡(参考展示)

つくばエクスプレス関連の土地区画整理事業に伴って調査された遺跡で、発掘調査は終了し、現在整理作業を行っています。この遺跡から、縄文時代中期中葉～後葉(約4,500年前～4,000年前)の数百軒に及ぶ竪穴住居跡などが発見されました。環状集落が形成され、その中から集落のリーダーの権威を表した7点ものヒスイ製大珠が出土し、注目を浴びています。



# 古墳時代

常磐自動車道路線内では、旧石器時代及び縄文時代前期・中期の遺跡が豊富な資料を伴っていますが、その後は弥生時代末まで無住の地となり、古墳時代になって小規模な遺跡が散見されるようになります。

## 柏市花前Ⅱ - 1 遺跡

竪穴住居跡は4軒のみの検出で、中期初頭が3軒、後期が1軒の構成ですが、002号竪穴住居跡からは、中期初頭の比較的良好な土器のセットが出土しました。



002号竪穴住居跡全景



002号竪穴住居跡土器出土状況



002号竪穴住居跡出土の壺

## 柏市矢船遺跡

竪穴住居跡2軒のみでしたが、001号竪穴住居跡から、勾玉・剣形模造品・土玉のほか、多量の土器が出土しました。この住居跡は、焼土や炭化材が多く残っていたことから、焼失家屋と思われます。遺物は、住居内に3か所設けられた貯蔵穴を中心に約200点出土しています。土器は高杯が多くありますが、線刻が描かれた壺も出土しました。

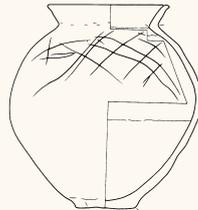
台地縁辺部にほぼ単独で建てられた竪穴住居跡から、多量の遺物が発見されたことや、石製の勾玉を所有していたことなどから、この住居に住んでいた人物は、何か特殊な役割を担った人物だったのかもしれませんが。



001号竪穴住居跡全景



線刻された壺



勾玉

001号竪穴住居跡から出土した土器群は、東京都柏江市の和泉遺跡から発見された土器群から古墳時代中期の「和泉式土器」（約1,600年前）と命名され、関東地方を中心に広く分布しています。壺を小型化したような「坩」や脚部が長く、杯部が大きく広がる高杯はこの頃の土器の特徴です。



001号竪穴住居跡遺物出土状況



坩



高杯

## 流山市上貝塚遺跡

竪穴住居跡は9軒の検出で、いずれも後期に属しています。住居軒数は少ないものの、比較的良好な土器が出土した竪穴住居跡も含まれています。出土した土器は、市川市鬼高遺跡から発見された土器をもって「鬼高式土器」と呼ばれるもので、この集落が形成された時期は、6世紀前半から7世紀中頃までの100年以上もの間で、数軒単位で継続的に小規模な集落が営まれていたと思われます。



001号竪穴住居跡全景



出土高杯

古墳時代後期になると、縄文時代以降、床面中央付近に設けられてきた炉に代わって、壁を掘り込んで作り付けた「カマド」が厨房施設として採用されるようになります。このことにより、住居中央に広い空間が確保でき、作業場などとして有効利用できるようになりました。また、縄文時代以降の素焼きの土器のほか、窯を使って高温で焼かれた「須恵器」が現れるようになります。カマドも須恵器も朝鮮半島を起源とするもので、生活上の大きな変化があった時期ともいえます。



008号竪穴住居跡全景



出土土器



014号竪穴住居跡全景



出土土器

# 奈良・平安時代

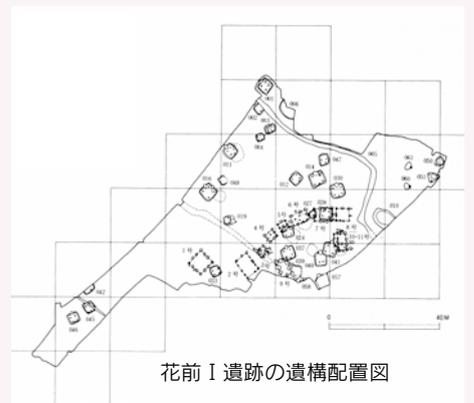
常磐自動車道路線内の奈良・平安時代の集落は、8世紀前半～10世紀後半までの比較的長期間にわたって営まれていますが、特に9世紀代～10世紀代にかけての製鉄に関連した集落が注目されています。花前Ⅰ遺跡・花前Ⅱ遺跡から出土した「☆」記号の墨書土器は両遺跡に共通しており、この2遺跡は製鉄を中心に相互に関連した集落とみることができます。

## 柏市花前Ⅰ遺跡

本遺跡は、北東側に利根川を望む比較的広い台地上に位置しています。発見された奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡25軒、掘立柱建物跡11棟などです。集落の出現は8世紀前半で、9世紀中頃～10世紀前半に集落規模が大きくなり、11世紀に入る頃には台地上から集落が姿を消しています。後述する花前Ⅱ遺跡も同じような集落変遷をたどっており、製鉄が盛んに行われた時期が花前Ⅰ遺跡の集落が拡大する時期とほぼ重なっていることも、両遺跡の関連性を考える上で重要な点と思われます。



花前Ⅰ遺跡の集落全景(航空写真)



花前Ⅰ遺跡の遺構配置図

この遺跡からは、小鍛冶跡などの鉄づくりに関連する遺構は見つかりませんが、総数1,818点にも及ぶ多量の鉄滓てつさいが出土しています。その中には、鉄分の含有量が多いものが全体の6割を占めており、意図的に選別された可能性が高いと考えられています。さらには、鉄素材や鉄づくりの工具であるタガネ、折り曲げられたり、磨り減った刀子が多く出土していることなどから、鉄器の再生産が行われたと想定されます。



016号竪穴住居跡全景



須恵器の杯



鉄鎌と折り曲げられた刀子



040号竪穴住居跡全景



銅製柄杓



墨書土器「☆」

墨書土器「○」



タガネ



041号竪穴住居跡全景



出土須恵器

本遺跡は、花前Ⅱ遺跡との関係が認められますが、大きな違いは花前Ⅰ遺跡のみに掘立柱建物跡が存在していることです。小形の建物の中には総柱の倉庫と思われる施設も含まれ、弧を描くように配置されています。一方、小さな建物群の西側には、3間×3間と2間×4間の比較的大形の建物が確認され、倉庫とは異なった機能をもつ建物と思われます。花前Ⅱ遺跡を含む鉄づくりや鉄製品を管理・収蔵する役割を担った建物群かもしれません。



10号掘立柱建物跡出土の二彩陶器



7号掘立柱建物跡出土の甕



008号掘立柱建物跡



001号掘立柱建物跡

# 奈良・平安時代

## 柏市花前Ⅱ-1 遺跡

報告書では、花前Ⅱ-1 遺跡・花前Ⅱ-2 遺跡として報告されていますが、同一台地上にあることから、同一の遺跡として捉えることができます。

花前Ⅱ-1 では、竪穴住居跡22軒が確認されています。鉄づくりに関連する遺構はありませんでしたが、羽口や鉄鍬未製品など、関連した遺物が出土しています。

## 柏市花前Ⅱ-2 遺跡

本遺跡では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が22軒調査されていますが、最も注目されるのは、斜面部で見つかった9基の製鉄関連遺構です。その内訳は、製錬炉6基、精錬炉3基となっています。多くの鋳型も出土しており、鉄素材から鉄器製作まで一貫した生産を行った最先端のハイテク工場だったと考えられます。



013号竪穴住居跡

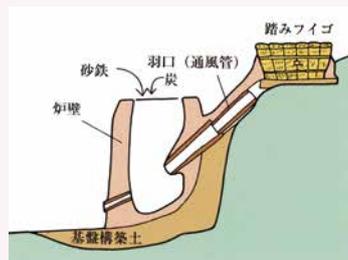


墨書土器「☆」

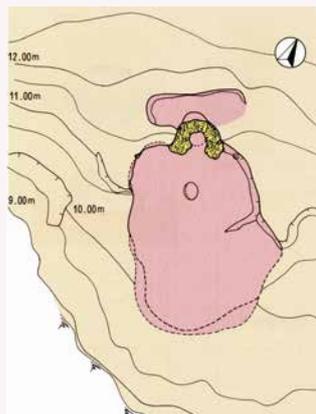
耳皿



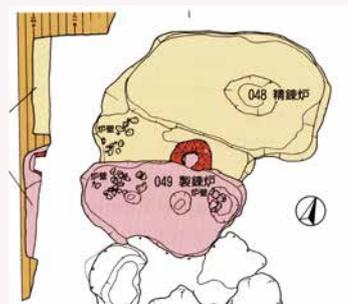
花前Ⅱ-2 遺跡の製鉄遺構と周辺遺構配置図



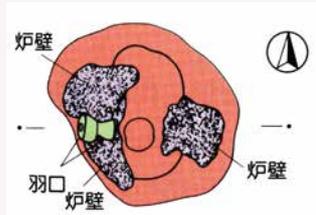
竪形炉構造模式図



073 製錬炉(竪形炉)



048 精錬炉・049 製錬炉



048 精錬炉

製鉄は、大きく製錬と鍛冶・鋳造に分けられます。製錬は、原料の砂鉄や鉄鉱石を木炭と一緒に溶解し、不純物を取り除く工程です。これには製錬炉が用いられ、その形から、ユニットバスのような長方形箱型炉と円筒状の半地下式の竪型炉に分けられます。花前Ⅱ-2 遺跡は、竪型炉のタイプです。従来の研究では、箱型は竪型より早い時期に登場するとされていますが、千葉県では両者が混在して発展していったようです。

一方、製錬炉でできた鉄塊からさらに成分を調整し、加工可能な鉄をつくる工程を精錬と呼びます。精錬炉で生成される不純物は炉の底にたまりまゝ。これを椀形滓と呼んでいます。



009号竪穴住居跡内精錬炉



獸脚鋳型



鉄ばさみ

花前Ⅰ 遺跡や本遺跡で共通して出土する墨書土器「☆」は、呪符に用いられる独特の符号です。五芒星と呼ばれ、陰陽道や修験道では「五行」、すなわち「木・火・土・金・水」を象徴するものと言われています。また、「◎」も他の遺跡ではあまり見られない記号です。

本県で最も多く出土している朱書の記号も通常の墨書とは異なった性格が考えられます。これらも呪符の記号と思われ、高度な技術を伴う鉄器づくりの安全などを祈願して書かれ、何らかの呪術的な祭祀に用いられたものと考えられます。



005 精錬炉出土の  
灰釉陶器手付き小瓶



005 精錬炉出土の  
灰釉陶器高台付き椀



047 精錬炉出土の羽口

# 江戸時代

江戸時代、17世紀の半ばになると利根川の流れは銚子へとつながり、利根川と江戸川を利用した水上交通は、東北地方や北関東からの物資を江戸へ運ぶ水運の動脈として発達していきました。柏や流山でも人や物の動きが活発になり、数々の産業が発達し、流域には多くの船着き場や問屋も生まれました。

## 柏市<sup>はなまえ</sup>花前Ⅱ-1・Ⅱ-2遺跡

発掘された屋敷跡は、こうした江戸時代に柏の北部(大青田、大室、小青田、正連寺、花野井、船戸、山高野、若柴)を治めた代官の屋敷だったと考えられています。発掘では160㎡ほどの母屋<sup>もや</sup>の他に、土蔵(約50㎡)や井戸、水を溜める「流し溜」、農作物の種を水に浸して保存しておく「種池」などの施設が見つかりました。また、屋敷地を区画する溝や屋敷へ続く道も確認されており、屋敷全体の規模は3,000㎡に及ぶと推定されます。

この屋敷地や周辺から出土した江戸時代の遺物には様々な物がありますが、遠く九州から運ばれた肥前陶磁(有田焼)の器が特に目を引きます。その中には通常大名屋敷でなければ出土しないような白磁の鉢や染付の大皿なども多く含まれており、代官や富農といった、この地域の有力者達が経済的に大きな富を蓄えていたと想像されます。



母屋(M01)全景 (白く囲まれたのは柱の跡)



土蔵(M02)全景



流し溜(M16)全景



井戸(M04)全景



白磁陽刻菊花文鉢



染付皿



染付鉢

## 流山市所在の塚

常磐自動車道路線内では、塚2基が発掘調査されていますが、その性格や構築年代を知る手がかりはありませんでした。ただ、塚(1)の周辺にある庚申塔<sup>こうしんとう</sup>に「元文二(1737)年十月吉日」の銘があることから18世紀前半代に造られた可能性も考えられます。



塚(1)全景



塚(1)道しるべ出土状況全景

## 柏市・流山市所在の馬土手

千葉県内には古くから多くの牧<sup>まき</sup>がありましたが、江戸時代、幕府はこれらを小金牧・佐倉牧・嶺岡牧の3か所に整備しました。牧の周囲には土手や堀が築かれ、馬が逃げるのを防いだり、周辺の田畑が荒らされないようにしていました。また、牧内には集めた馬を捕まえるための囲い土手や捕込<sup>とっこめ</sup>、牧への出入口にあたる木戸も設けられ、牧士<sup>もくし</sup>と呼ばれる役人を中心に馬の飼育や管理がおこなわれていました。

常磐道の路線は小金牧の中にあつた上野牧と高田台牧が置かれたところを通っており、柏市で1か所、流山市で3か所の調査がおこなわれました。発掘の結果、土手が補修や改修を重ねながら使われていたことや、江戸時代の末になると堀はすでに埋まりつつあって、制度として牧が廃止される明治2(1869)年より前に馬の飼育や管理といった牧の機能が失われていた可能性が高いことがわかってきました。



馬土手(1)状況(右側の高まりが土手、中央が堀)



馬土手(2)出土の染付花文小形瓶

## 展示関係略年表

	世紀	時代	主なできごと	常磐自動車道の各遺跡と特徴	
30,000年前		旧石器時代	氷期が続く 狩猟や採集をしながら移動生活	環状ブロックの形成 長期間の人々の営み	中山新田 I 遺跡 聖人塚遺跡
13,000年前				本ノ木型石槍の生産	元割遺跡
10,000年前			草創期	土器をつくり始める	
7,000年前		前期	本格的なムラがつくられ始める	前葉の黒浜式期の集落が出現	若葉台遺跡 花前 I 遺跡
6,000年前	縄文時代	中期	大きな貝塚・ムラができる	前葉の阿玉台式期の集落が展開	聖人塚遺跡 中山新田 I 遺跡・中山新田 II 遺跡・水砂遺跡
4,000年前		後期			
3,000年前		晩期			

(弥生時代省略)

1,700年前	4世紀	前期	ヤマト王権の確立 奈良に出現期の古墳がつくられる		
1,600年前	5世紀	古墳時代 中期	倭の五王の時代 各地に巨大な前方後円墳がつくられる	小規模な集落が出現	花前 II -1 遺跡・矢船遺跡
1,500年前	6世紀	後期	群集墳の盛行	集落規模の拡大	上貝塚遺跡
1,400年前	7世紀	(飛鳥時代)	645大化の改新		
1,300年前	8世紀	奈良時代	710平城遷都	鉄器生産を伴う集落の出現	花前 I 遺跡 花前 II -1 遺跡
1,200年前	9世紀	平安時代	794平安遷都		
1,100年前	10世紀		940将門の乱平定	本格的な製鉄の展開	花前 II -2 遺跡

(中世省略)

400年前	17世紀		1603徳川家康征夷大將軍となる		
300年前	18世紀	江戸時代	1716徳川吉宗將軍となる(享保の改革)	広大な屋敷地	花前 II -1 遺跡・花前 II -2 遺跡 塚(1)・(2)
200年前	19世紀		1867大政奉還	小金牧に伴う馬土手	馬土手(1) ~ (3)

●発行日：平成29年7月14日

●編集・発行：公益財団法人千葉県教育振興財団 〒284-0003 四街道市鹿渡809-2

●印刷：株式会社エリート情報社